

校長室だより

令和5年度 第2号

100年後

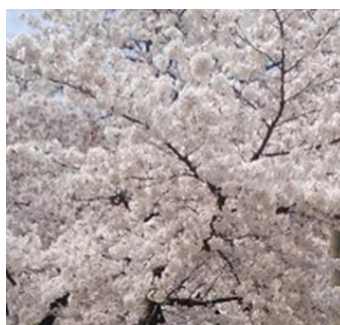
本校創立100周年記念式典につきましては、来たる10月21日(土)に本校体育館で挙行いたします。現在は、それに向けての準備を着々と進めているところです。

同窓生の方々はもちろんのこと、地域の皆様やゆかりある方々からの本校に対する温かなご声援を様々な場面でいただいております。改めて感謝申し上げますとともに、それらの期待にお応えできるよう、周年行事のみならず日々の活動に取り組んでまいります。

本校生徒の皆さんも、100周年に向けて具体的な動きを開始しました。その一つとして豊高オリジナルキャラクターの作成があり、校内から募集してデザインを決定することとし、まずは7月の豊高祭でお披露目しようという計画がなされています。どんなキャラクターができて上がるか、今から楽しみにしています。

生徒の皆さんにはこれらとは別に100年にちなんだ、ちょっとした課題を校長から提示してあります。過去の歴史を踏まえて、では100年後の豊科高校はどうなっているのだろうか想像してほしいという問いを、Google Classroomを通じて投げかけました。

すると回答のほとんどは、今と同じような平和で伸びやかな豊高であろうこと、充実した生活を送れる楽しい学校であるだろうこと、個性豊かな豊高生のままでいてほしいこと、などでした。なるほどそうかもしれないと思いつつ、100年後が今と同じような環境であるかどうか、もう少し掘り下げて考えてもらおうと、次の質問を投げかけました。それは「100年後の安曇野はどんな景色になっているだろうか?」、また「100年後にそもそも学校は存在しているのだろうか?」です。



今年の入学式は4月6日に満開の桜のもとで挙行されました。それがこの写真です、というのは実は違って、この景色は松本市内のある場所で写したもので、日付は平成29年(2017年)4月20日でした。たった6年間で桜の満開に2週間もの違いが生じており、別のデータでは2021年の京都の桜の満開日は3月26日で、平安時代までさかのぼっても過去1200年間で最速だったといえます。

たとえば自然環境をとっても、今と同じ状態を維持するためには相当な手立てが必要だと思われます。そのあたりのことを生徒たちはどう考えていくか。これこそが探究の始まりだと考えます。